

化学療法を受けられる患者様へ



枚方公済病院

平成29年 7月 作成





はじめに



枚方公済病院では、患者さんが抗がん剤について理解したうえで、安心して治療を受けていただくために、このパンフレットを作成しました。このパンフレットの中には、抗がん剤による副作用の種類とその対策法をはじめとして抗がん剤治療を受けられる患者さんにとって参考となる情報が盛り込まれてています。治療を始められる前に是非ご一読いただき、安心して治療を受けていただきたいと思います。

当院スタッフは、主治医、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士と連携をとりながら、より良い治療を提供できるように関わらせていただいています。いつでもご質問にお答えいたしますので、わからないことは遠慮なくご質問ください。



【化学療法とは】

化学療法とは、全身に広がっていると考えられるがん細胞を抗がん剤により攻撃する治療法です。

手術などの局所療法では取り切れなかった目に見えないがん細胞や、すでに他の部位に転移しているがん細胞をやっつけたり、小さくしたり、増えないよう抑えたりすることができ、治癒・延命・症状緩和といった効果が期待できます。

【化学療法の目的】

- がんを治癒させるため
- がんの増殖抑制による延命効果
- がんによる種々の症状を和らげる
- がんの再発を予防する

【抗がん剤治療の方法】

（注射薬）

抗がん剤を1種類だけ使う単剤療法や、タイプの違う抗がん剤をいくつか組み合わせて使う多剤併用療法があります。

（経口薬）

錠剤やカプセル剤を服薬します。



（注射薬＋経口薬）

点滴、皮下注射、内服を併用する治療もあります。



《治療の流れ》

《採血》 ✨治療の前には原則として採血を行います✨

白血球・赤血球・血小板の数や腎臓・肝臓の機能が悪くなっていないか確認します。尿にタンパクが増える可能性のある治療薬では尿検査も行います。



《診察》

採血・検尿結果の確認や副作用の有無、当日の体調や患者さんの気持ちをお聞きします。お悩みのことがあれば、何でもご相談下さい。



《薬の準備》

医師が処方した抗がん剤を、薬剤師がチェックし準備します。

《治療》

副作用を軽減するためのお薬を投与後、抗がん剤を開始します。



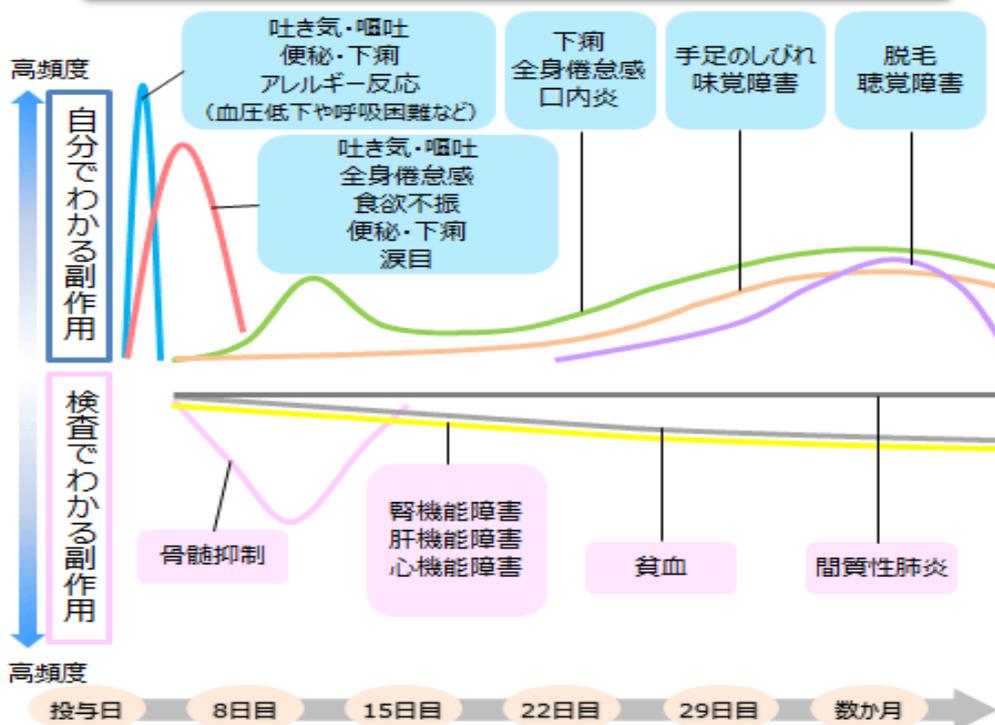
【副作用について】

抗がん剤に副作用はつきものですが、副作用は使う薬によって症状が違います。副作用が出たとしても、早い段階で対応すれば、心配いりません。最近では、副作用の多くを薬で抑えることができるようになりました。また、抗がん剤の種類や量を変えることにより、副作用が軽くなることがあります。おかしいと感じたら、決して無理をせずに相談してください。日常生活では、食事の工夫や清潔にこころがけ、感染予防を行いましょう。

一般的な副作用の出現時期とセルフケア

副作用	出現時期	セルフケアなどの対策例
アレルギー反応	投与初日	<ul style="list-style-type: none">・ 蕁麻疹、発熱、血管の痛み、呼吸が苦しいなどの・ 症状があるときは直ぐに看護師に知らせる
食欲不振/嘔吐	投与初日～数日	<ul style="list-style-type: none">・ 処方された支持療法薬を確実に内服する・ 飲水を十分に行ない、便秘を予防する・ 締め付けの少ない服を着る・ 消化の良い食べ物を食べる・ しょうがやレモンなどを食事に取り入れる
体のだるさ	投与初日～数日	<ul style="list-style-type: none">・ 食後や夕方に休息をとる・ 飲水を十分に行なう
便秘	投与初日～14日	<ul style="list-style-type: none">・ 飲水を十分に行なう・ 緩下剤を早めに使い3日以上便をためない
下痢	投与初日～14日	<ul style="list-style-type: none">・ 乳製品、香辛料、カフェイン、アルコールを避ける・ 飲水を十分に行なう
口腔粘膜炎	7～14日	<ul style="list-style-type: none">・ 虫歯を治療しておく・ 食事をとらなくても毎食後の歯磨きを行なう・ お口の乾燥を防ぐ（飲水とうがいを頻回に）
骨髄抑制 (白血球減少)	7～14日	<ul style="list-style-type: none">・ 白血球が減っている時期は、感染しないよう人混みを避ける。もしくはマスクを着用する
爪の変形	2週間～1か月	<ul style="list-style-type: none">・ 爪切りよりも爪やすりを使用し、角は少し伸ばす
手足のしびれ	2週間～1か月	<ul style="list-style-type: none">・ 症状がある時は我慢せず、医師、看護師に伝える
味覚障害	2週間～1か月	<ul style="list-style-type: none">・ 食べやすいものを食べるようにする
脱毛・皮膚障害 (色素沈着・角化・亀裂)	2週間～1か月	<ul style="list-style-type: none">・ 皮膚を清潔に保ち、保湿を行う・ 化学療法開始前より必要時ウィッグなど準備する

一般的な抗がん剤による副作用の現れ方



感染について

抗がん剤治療後7～10日目頃より白血球をつくる働きが低下し、10～14日くらいで最低となり3週間ほどで回復してきます。



まずは、発熱（38度以上）がないかどうか注意しましょう！

- ・咳、痰、のどの痛みなど
- ・下痢
- ・排尿時痛、残尿感、血尿など
- ・痔痛の増強、肛門周囲の腫れなど
- ・織物の増加、陰部のかゆみなど
- ・傷口周囲の腫れや発赤
- ・歯の痛み、歯肉の腫れ



対策

- ・手洗いとうがい
- ・身体の清潔に努める
- ・けがややけどに注意
- ・電気カミソリや安全カミソリの使用
- ・庭いじりは手袋を使用
- ・食べ物に注意
- ・口腔内を清潔に保つ

貧血について

症状

- ・体がだるい、疲労感
- ・めまい、立ちくらみ
- ・動機、息切れなど



対策

- ・適度な休息
- ・急に立ち上がらず、いったん座って

血小板減少について

症状

- ・傷をしたところからの血が止まりにくい
- ・歯ぐきから出血
- ・手足にあざができる(皮下出血)
- ・血便や血尿
- ・脳内出血を疑うような激しい頭痛や嘔吐

対策

- ・歯磨きは優しく！
- ・鼻をかむときは強くかまない！
- ・事故による大量出血は命とりです。車やバイクに乗る時、機械操作をする時は注意してください。
- ・はさみや包丁やアイロン等を使う時は注意してください。
- ・飲酒は控えめに！
- ・転倒に注意してください！



【化学療法中の注意事項】

・主治医から処方された以外の薬またはサプリメントは、服用前に医師・看護師にお知らせください。



・点滴中、点滴後に針のある周囲が『痛い』『熱っぽい』『腫れている』など感じましたらお知らせください。

《トイレの使用について》

・点滴を受けてから数日間は体内に化学療法の薬が残り、汗や尿・便にもお薬の成分が残ります。可能であれば洋式便器を使用しましょう。排泄後はトイレのふたを閉めて水を流し、流水と石けんで手を洗いましょう。



トイレ使用後は、2回流しましょう。

・入院中ポータブルトイレをご使用している方は、排泄後ナースコールでお知らせください。

《洗濯について》

・明らかな汚れがない衣類やリネン類は、他の洗濯物と一緒に洗っても構いません。尿や便、嘔吐物が付着した衣類やリネン類は、使い捨て手袋を着用して予洗してから、他の洗濯物と分けて二度洗いしましょう。

初めて化学療法を行うときは、入院して治療を行っていただき、症状を見ながら外来での治療が可能なら移行していきます。退院するまでに、外来化学療法室を見学し（出来れば御家族も一緒に）外来での点滴治療の流れの説明を受けていただきます。

尚、外来化学療法室での点滴治療は、ベッドが空き次第ご案内いたしますが、待ち時間が発生することもございますので、ご理解のほどよろしく願います。

《どんな症状の時にすぐに受診したらいいの?》

以下のような症状が出現したり、何かおかしいと感じた場合は、自分で判断しないで主治医または看護師、薬剤師にすぐに連絡してください。

- 38度以上の発熱が続く場合
- 一日に4回～6回水のような下痢がある場合
- 3～5回/日以上吐き気・嘔吐があり食事・水分が摂れない場合
- 点滴をした部分の痛み・腫れがある場合
- その他、急激な症状があり（咳・ヘルペス）、自分では判断できない場合

外来治療中の方は、早めに受診をしてください。
休日は病院に連絡後、来院してください。

枚方公済病院 ☎ 072-858-8233

【サポート】

（がん相談支援センター）

がんと診断され、とてもつらい思いのときに、治療について医師から説明をされても理解できないときや、自分が通っている施設であるからこそ医療者に直接相談しづらいこともあると思います。

そのような場合、『**がん相談支援センター**』という相談窓口を利用することができます。がん相談支援センターは、がん医療に関するさまざまな悩みや心配、相談事、つらい思いに関して、面接もしくは電話での無料相談を受け付けている窓口です。通院中の患者さん、ご家族はもちろん、それ以外のどなたでも利用することができます。ご希望内容に合わせて情報提供を行なうことや、必要時には、その施設の医師・薬剤師・看護師や、さまざまな専門家や緩和ケアチームをはじめとする専門チームへの橋渡しも行なっています。

近隣のがん支援センターについては、**がん情報サービスのホームページ**で調べることが出来ます。または、看護師または医療連携室にお尋ねください。

[がん情報サービス ganiyouho.jp](http://ganiyouho.jp)

がん情報サービスは、患者さんや家族が、がんについての最新の正しい情報をわかりやすく紹介しているウェブサイトです。

（医療費助成制度）

がん治療費は、抗がん剤など比較的単価が高価なものが多いため、自己負担額も高額となる場合があります。そうした場合の経済的負担を軽減するために設けられた制度がありますので一部ご紹介します。

『**高額療養費制度**』は、70歳未満の患者の場合はあらかじめ「**限度額適用認定証**」の申請手続きをして、高額療養費制度を利用することで窓口負担を自己負担限度額までとすることができます。70歳以上の方は、「**高齢受給者証**」または「**後期高齢者医療被保険者証**」を提示することにより、窓口での支払いを限度額までにとどめることができます。

『**医療費控除**』は、1年間に高額な医療費を支払った場合、確定申告を行うことにより税金が軽減されます。

この冊子に書かれている内容や、それ以外のことでもわからないことは遠慮なくご質問ください。

枚方公済病院



